

1. 評価結果概要表

平成 20年 3月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	2070201138
法人名	株式会社 山 忠
事業所名	グループホーム サンライズ里山辺
所在地	松本市里山辺 494-3 (電話) 0263-39-8090

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年3月19日	評価確定日	平成20年4月15日

【情報提供票より】(20年 1月 10日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 21日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	21 人 常勤9人 非常勤12人 常勤換算14.8人

(2) 建物概要

建物構造	混構造 造り		
	3 階建ての	2・3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (150000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	420 円	昼食	473 円
	夕食	473 円	おやつ	105 円
	または1日当たり		1,470 円	

(4) 利用者の概要 (1月 10日 現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1		要介護2	4名			
要介護3	8名	要介護4	4名			
要介護5	2名	要支援2				
年齢	平均	83.9 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上條記念病院 山岸医院 轟齒科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設は、松本市の市街地の東部に町を囲むように連なる、美ヶ原高原の山麓に位置し、山懐に包まれるように、西向きの斜面に美ヶ原温泉街のホテル、住宅が混在するなかであり、松本市外の夜景が一望できる静かな環境のもとにある。施設の建物は、鉄筋3階建て、一階は駐車場と玄関部分があり、エレベーターと階段で二階、三階のグループホームの施設に続いている。建物の東側には、非常災害時の避難用の幅広の階段が作られており、二階・三階には、それぞれワンユニットごとの居室・居間・食堂・浴場等が工夫された配置に作られている。昨年末交替になった施設長を中心に、経験豊かな介護職員が一丸となって、地域住民の協力を取り付けつつ、利用者への「利用者一人ひとりに感動と実のりある相互扶助し合える施設作り」を目標に施設作りが進んでいる将来に期待の出来る施設である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価において、運営理念の分野で地域への啓発広報の取り組み、ケアサービス分野で利用者の生活暦把握への努力、運営体制分野で職員の研修参加への督励など改善課題として要望されていたが、管理者の交替以後徐々に改善に向けた取り組みがされつつある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長及び主任が主となり一部幹部の意見を聞き集約して自己評価作成に当たられているが、自己評価・外部評価双方の趣旨を十分に理解され、各項目ごとに職員全員で検討し合いサービスの向上に取り組まれることが望まれる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者家族・地域の代表者を交えた運営推進会議が平成18年に立ち上げられ、意見交換により出された事項については職員を含めた検討会議で検討し合い、施設の運営・サービスの向上に反映されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に対する月々の会計報告の際の便りの中に利用者の近況報告と共に施設への意見・苦情等遠慮なく申し出されるよう依頼文を同封すると共に、施設で行う敬老会に利用者家族全員に参加依頼をし事後意見交換会を開き、施設への意見を上げてもらい、運営への反映・サービスの向上に努められている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民・地区ボランティアの受け入れ等徐々に交流は広がりつつあるが、施設職員・利用者が地域に積極的に出かけていき地域の各種行事に参加する等施設の特徴を地域住民に理解を得る交流の輪を広げていく工夫が望まれる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	新管理者の示される、「利用者一人ひとりが感動と実のりある、相互扶助し合える施設作り」の理念が職員にも示され新体制への取り組みが始まっているが運営規定・契約書・広報パンフレットでの理念表示が訂正されていないので早急に統一した表示をし利用者・家族へも周知されることが必要である。	○	地域密着型サービスとしての新理念を広報パンフレット等に統一した表示をし、利用者・家族・地域住民に広く理解されるよう、努力されることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月々に開かれる、ミーティング・全体会議・ユニット会議等の機会を通じ職員には新理念が伝えられ、日々の取り組みに活かされつつある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の来所・地域ボランティアの受け入れ等徐々に交流の輪は広がりつつあるが、地域の各種行事への施設職員・利用者の参加は、これからの課題とされている。	○	地域への広報のためのパンフレット等作りにより管理者・職員による施設の理解を得るための働きかけと各種行事への参加に努め、地元の人々との交流に努められることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、管理者と統括主任が他の幹部の意見をまとめ作成され、全職員による具体的な改善取り組みまでには至らなかった。	○	自己評価・外部評価は職員全体で各項目ごとに評価検討することにより、その評価を活かして具体的に施設の運営・サービスの改善に取り組むのが目的であり、その趣旨を職員に良く説明され、改善に向けた意見集約がされることが望まれる。

サンライズ里山辺

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年から地域住民の代表者・利用者家族の代表者等による運営推進会議が立ち上げられ、意見交換がされ施設運営とサービス向上への反映がされつつある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が市の担当者と交流を深められ、経営へのアドバイスを受ける等それを活かしサービスの質の向上に取り組まれている。また、四月からは介護相談員の受け入れも始まる予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	施設便りの発行は年に一回であるが、月々に金銭管理状況の報告をする際に、利用者の近況を知らせる便りを一緒に添える工夫がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	上記の便りに加え、施設への意見・苦情も合わせて提出されることを依頼するほか、敬老会の集まりに家族全員に参加を依頼し、事後の意見交換会に施設への意見交換がされるよう働きかけ、運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みのある職員が対応することの重要性を職員に徹底し利用者への対応に心がけるようにしており、職員の異動を最小限にとどめるよう配慮し、年間の異動職員はゼロである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の各種研修を一覧表にし出席への声掛けがされ、旅費等の支給にも配慮され、職員の育成にも努力されつつある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くの介護施設の音楽コンサート・研修会・夏祭りの行事等に参加し、徐々に交流の輪がひろがるよう取り組みが進められている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申し込みの初期段階から、本人・家族と共に具体的な話と共に、施設への見学や遊びがてらの訪問等を繰り返し、徐々に雰囲気になじんでもらい利用開始につなげる工夫がされている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員には、利用者は、人生の中での先輩であることの認識を全員で共有し合い、利用者の生活歴や思いの把握につとめ、お互いに協同しながら穏やかな生活ができるよう支え合う関係作りがされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時のアセスメント資料のみにとどまらず本人の意向や思いに少しでも近づくようミーティングや日々の関わりの中で意向・希望の把握に努めると共に、家族の来所時での会話から情報を得るよう取り組まれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者・主任とケアマネジャーが家庭訪問・本人家族と面談し本人・家族の意向・希望のほか、生活歴・身体状況等詳しく情報把握に努め、本人の状態に合った介護計画の作成がされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時見直しを主に、利用者の状態の変化に応じた介護計画の見直しに努められているが、本人・家族、必要な関係者が共に話し合っの計画の見直しが現状の変化に対応しきれない場合もある。	○	高齢者や身体能力の低下の早い利用者の変化の把握が大変な作業であり、関係者の意見を結集しての見直し作業と計画書作成には手間のかかるものであるが、出来る限り現状に沿った計画見直しへの努力がされ、家族・本人への説明も十分にされ確認の署名を受けておくことが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域に溶け込めるグループホーム作りには管理者職員協力して取り組まれつつあるが、多機能性を生かした支援への取り組みは今後の課題として考えていく方針である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医師・ホームの協力医師のいずれであっても、利用者本人の希望に添った医療がうけられるように、職員による通院介助や訪問診療の支援がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の高齢化・重度化に伴い、今後の大きな課題として認識されているが、十分な話し合い・方針の樹立までには至っていない。	○	職員全員で検討し方針を樹立し、利用者家族にも十分な話し合いと理解を得ること、及び周辺の介護施設・病院との連携を深め協力体制の確保への働きかけに努められることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの利用者の誇りやプライバシーを損ねない日々の対応に努め、職員にも日々の関わり方について勉強会・ミーティングを開き指導がされている。個人情報の取り扱いについても配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の時間の流れは大まかに定めてあるものの、起床・就寝・その日の過ごし方は、利用者個々にしたいことを聞き自由に各人のペースで過ごしてもらうよう支援がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物の希望を聞き食事に反映するなど、職員全員がテーブルにつき、時間を掛けながら食事介助をし、にぎやかに冗談も交え楽しい食事時間が過ごされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週二回の入浴日の定めはあるが、利用者の希望や排泄時の汚れ等その時々で状況で入浴準備をし、自由に、ゆっくりと入浴できる支援がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者・家族から生活歴や出来ること・趣味等の把握に努められると共に、日々利用者の意向を聞きつつ、声掛け・誘導に努められている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとの花見や紅葉探索など外出の機会は作られてるが日々の散歩・畑作りには、利用者の高齢化・機能の低下から戸外での活動希望者が少ない。	○	利用者の体力の低下防止・残存能力の維持のためにも、戸外活動のみにとどまらず、室内での軽い体操等体を動かす工夫がされることが望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	非常階段等危険な場所には施錠されているが、居室・玄関に施錠はなく自由に出入りできるようにされ職員にも鍵を掛けないケアに取り組む意識が理解されている。		

サンライズ里山辺

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議委員の協力を得て災害時の避難場所の提供を受ける等災害時の対策マニュアルを現在検討作成中であり、訓練の実施にもつなげていく予定である。	○	災害対応マニュアルの早期作成に努め、地域住民の協力を得た総合的な訓練も計画され、職員、利用者が非難・誘導方法避難場所等を理解されるように、繰り返し訓練をされることが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々のチェック表により食事量・水分補給の管理はされているが、栄養士不在のため、栄養摂取量の確認までには至っていない。	○	経営母体である配食サービス会社の栄養士による食事の栄養量のチェックを時々を受けアドバイスを受ける等健康状態に応じた支援がされるよう望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、花飾り・壁飾り等生活感・季節感が溢れる工夫がされ、居心地良く過ごせるよう配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者個々の好みに合った家具の持込や装飾が施され、居心地の良い生活空間の中で生活できる工夫がされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。